

に、4方向からの1分毎の写真を撮影した。

最後に近隣エリア調査においては、団地付近において、商業および福祉関係の施設、地域の情報源となりうる掲示板、ベンチなどの休憩所や公衆便所があるかどうかを調査された。

### 3. 調査結果

#### こぶし団地

こぶし団地における道のり調査、道路付近調査、公園調査、近隣エリア調査のマッピング結果を Appendix A-1 から A-5 に示した。まず、地域の社会的資源である自治会館までの道のり調査の結果、団地全体のほぼ中心地から約2分のところに位置していた( Appendix A-1、図-1 および図-2 参照)。

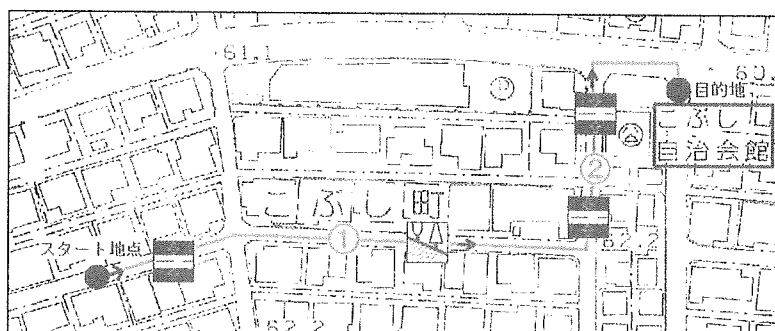


図-1: こぶし自治会館までの道のり

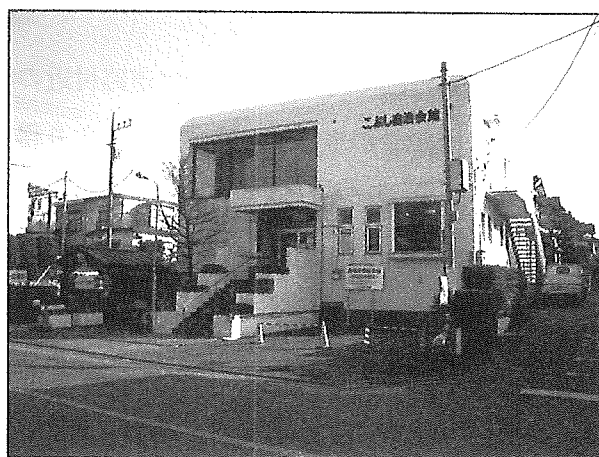


図-2: こぶし自治会館

歩道がない狭い道路は3箇所あるが(図-3 参照)、いずれも団地内ということもあり、車通りも少ないと予想され、高齢者の歩行には障害の少なさや安全面といった点では、比較的適していると考えられる。



こぶし自治会館までの道路状況

また、こぶし団地(実地調査スタート地点)から徒歩約5分には、所沢航空記念公園、またその周辺には所沢市役所や所沢市民文化センター(ミュージズ)もあり、この団地の近隣は社会的資源が非常に多いと考えられる(Appendix A-2 から Appendix A-4 参照)。航空記念公園までの道のりについても、団地を通っていく形になっていて、散歩道等にも適していると考えられる。下図は、スタートから2分たった地点における4方面の写真である。

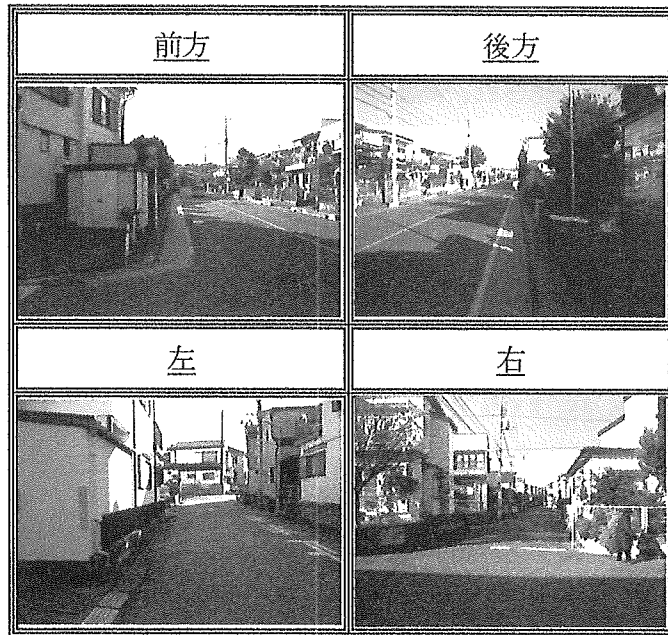


図-3：調査スタート地点から2分後の地点

### 新所沢団地

新所沢団地のマッピング結果を、Appendix A-6 から A-10 に示した。入居開始日は昭和 34 年であったが、近年建てかえが行われた(図-4 参照)。また、当時の居住者は約 3 割とされ、65 歳以上を対象としたこの団地へのアンケート調査における平均年齢は 72 歳であった。

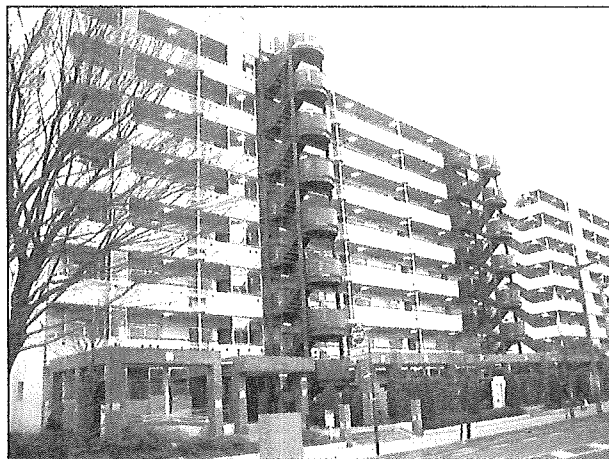


図-4：新所沢団地

新所沢駅前通に面したこの団地から徒歩約 8 分のところに、新所沢コミュニティセンターがある(Appendix A-6)。図-5 は、スタート地点から 5 分目の地点における 4 方向の状況である。

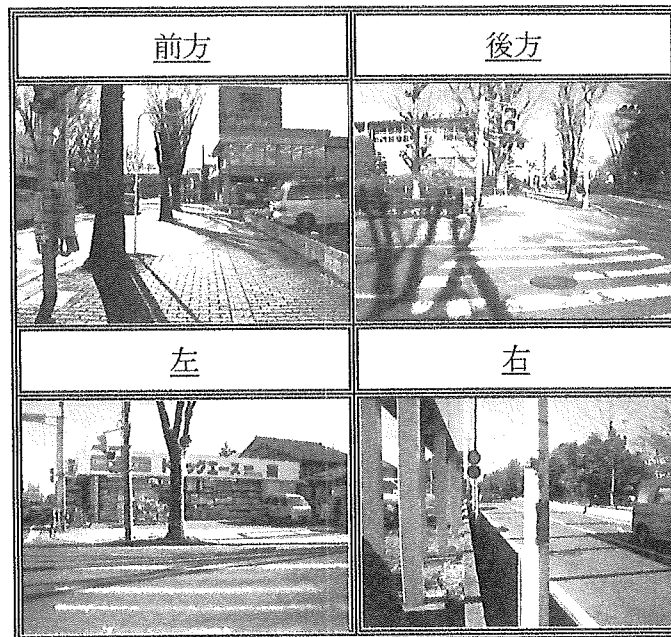


図-5：新所沢コミュニティセンターまでの道のり（五分目）

また団地に隣接したところに、緑町中央公園がある（図-6）。

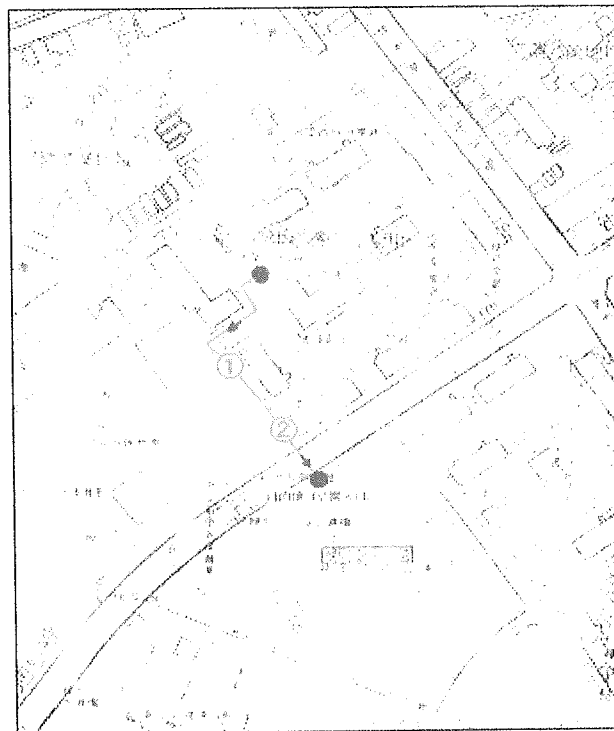


図-6：公園までの道のりのマッピング

この団地は新所沢駅の南西方面に広がっているが(Appendix A-10 参照)、駅前通りに歩行の妨げとなり得る放置自転車がある場所も存在した(図-7)。



図-7：駅までの道のり調査（放置自転車）

松が丘団地(住宅地)

松が丘住宅地における実地調査の結果を Appendix A-11 から A-15 に示した。ここは閑静な住宅街であり、住居のほとんどが一戸建てである。調査開始地点から徒歩6分のところに松が丘中央会館がある。ここまでの道のり調査では、高齢者の歩行の妨げとなるものはほとんどなく、道と道との段差(3~5センチ程度)が数箇所あるくらいであった。下図は、目的地までの代表的な道のりの状況である。

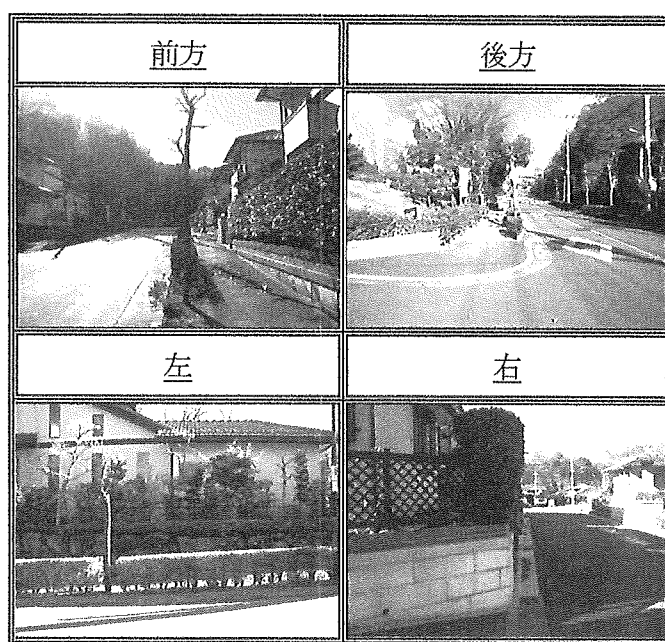


図-8：松が丘中央会館までの道のり調査（五分目）

映画「となりのトトロ」の舞台にもなったこの近隣地域では、松が丘緑地や八国公園などがあり、緑豊かな地域である。図-9 は、松が丘緑地の道のり調査における2分目の4方面写真である。

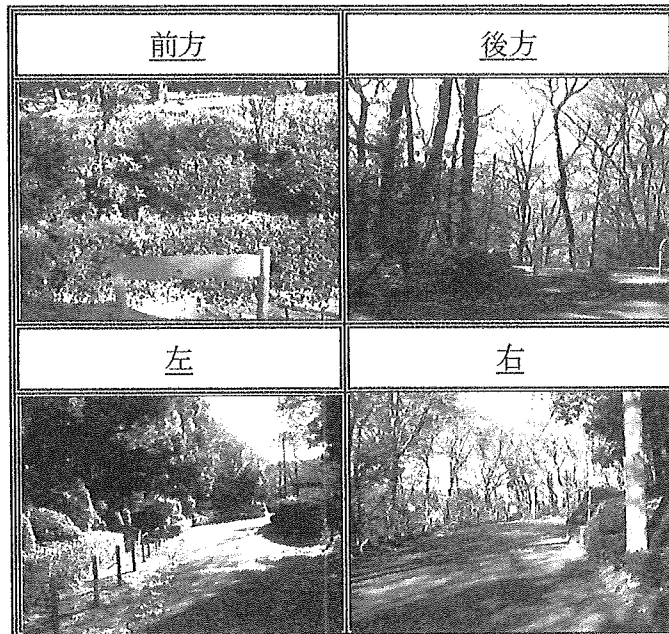


図-9：松が丘緑地の道のり（2分目）

#### 西武フラワーヒル

松が丘住宅と同様に、閑静な住宅街が広がる西武フラワーヒルにおける調査の結果を Appendix A-16 から A-20 に示した。

都心へは自家用車かバスによる移動がほとんどであると予想され、最寄り駅(新所沢駅)と西武フラワーヒルとの間には、西武バスが運行している。

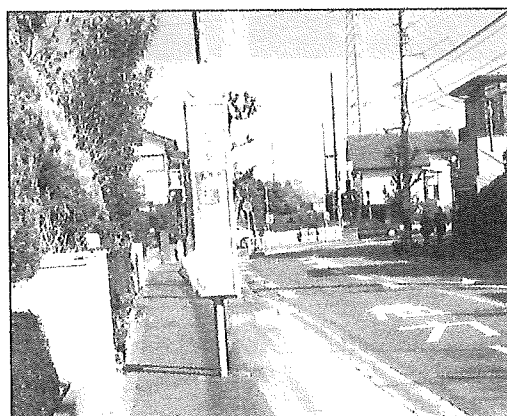


図-10：バス停（西武フラワーヒル）

調査を行った近隣エリアでは、大きな公園はなかったものの、テニスコートやセミパブリックスペース(小公園)も存在した。住宅地であるため、スーパーやコンビニエンスストア等はない(図-10 および図-11 参照)。

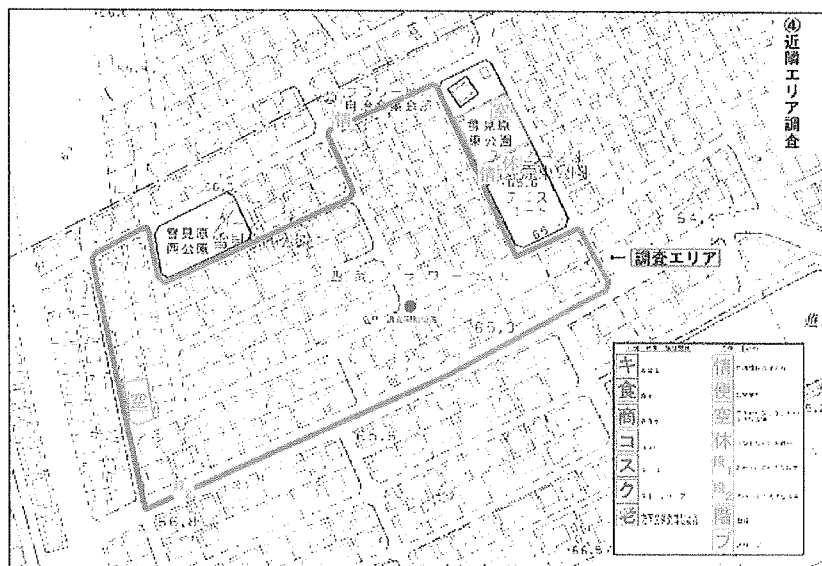


図-10：西武フラワーヒル近隣エリア調査

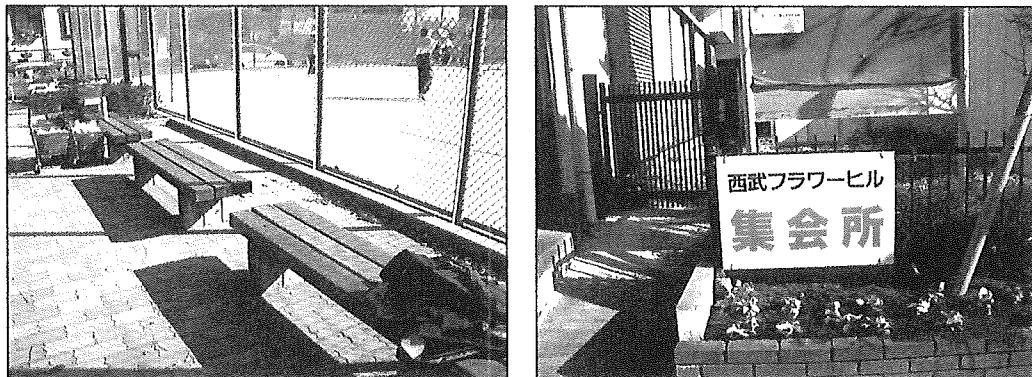


図-11：テニスコートと自治会集会所（西武フラワーヒル）

### 永山団地

永山団地におけるマッピングの結果は、Appendix A-21 から A-24 である。近年、建物の老朽化、団地居住者の高齢化が急速に進む多摩ニュータウンの永山団地であるが、多数の公園や遊歩道、郵便局やスーパーマーケットも近隣地域に存在している。また、シャッターが閉まっている商店街、いわゆる“シャッター商店街”もあるが、

一方で、このような店舗のひとつを利用した、高齢者の集う食堂兼喫茶店(図-13 右上は、昨年度ヒアリングを行った NPO 法人“福祉亭”)などもあり、地域住民の交流が行われている。



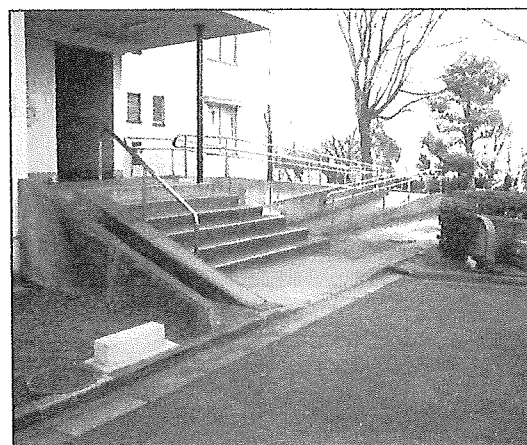
ヨウカン型団地



出入口の段差



バリアフリー(その1)



バリアフリー(その2)

図-12：永山団地の様相





シャッターが閉まっている商店



NPO 法人「福祉亭」



近隣のスーパー



近隣の商店(その1)

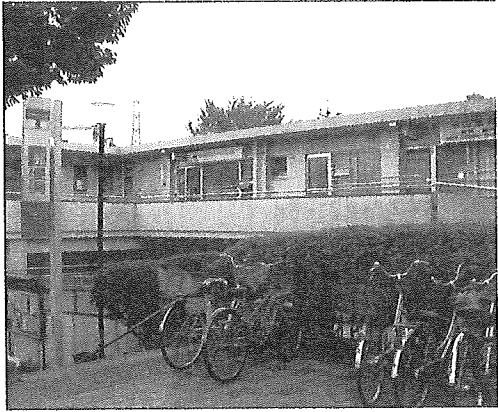


近隣の商店(その2)



近隣の商店(その3)

図-13：永山団地の近隣エリア (1)



団地内の郵便局



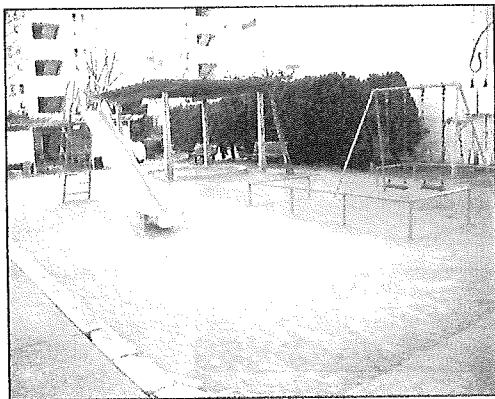
ガードレールのある歩道



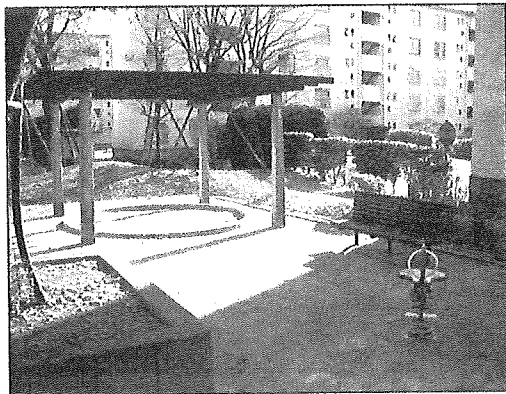
団地内の大きな公園のベンチ



団地内の公園(その1)



団地内の公園(その2)



団地内の公園(その2)

図-14：永山団地の近隣エリア (2)

図-15 は永山団地の調査開始地点から、公民館までの道のりのマッピングの結果である。スタート地点からは、商店街や車通りの少ない道を通り、約五分の道のりである。図-16 は、出発から2分後の地点における4方面の様子である。



図-15：永山団地における道のり調査（公民館）

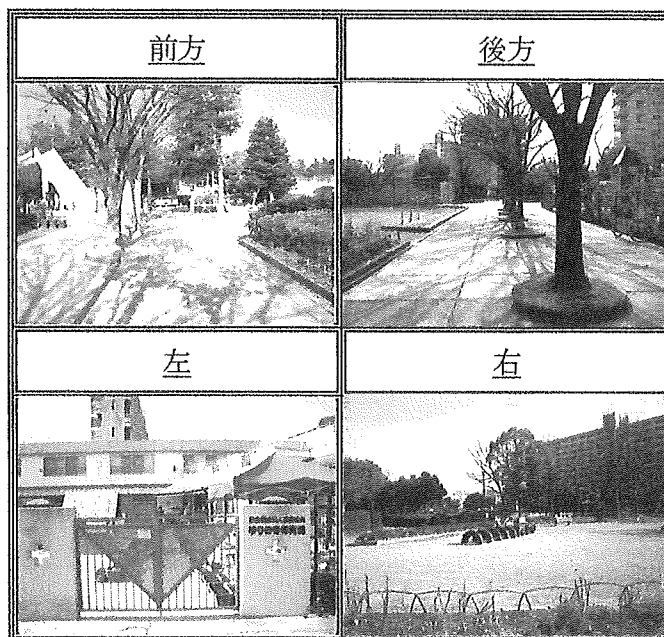


図-16：公民館までの道のり（2分目）

## 百草団地

Appendix A-25 と A-26 は、百草団地の近隣エリアとバス停までの道のりの調査結果のマッピングである。多摩市の北西に位置し、日野市との境にあるこの団地では、京王線高幡不動駅などの最寄り駅までは自家用車およびバスによる移動が主であると考えられる(図-17 参照)。また、商店街やコンビニもあまり存在せず、近隣地域での生活における利便性は、あまり良いとは言えないであろう。

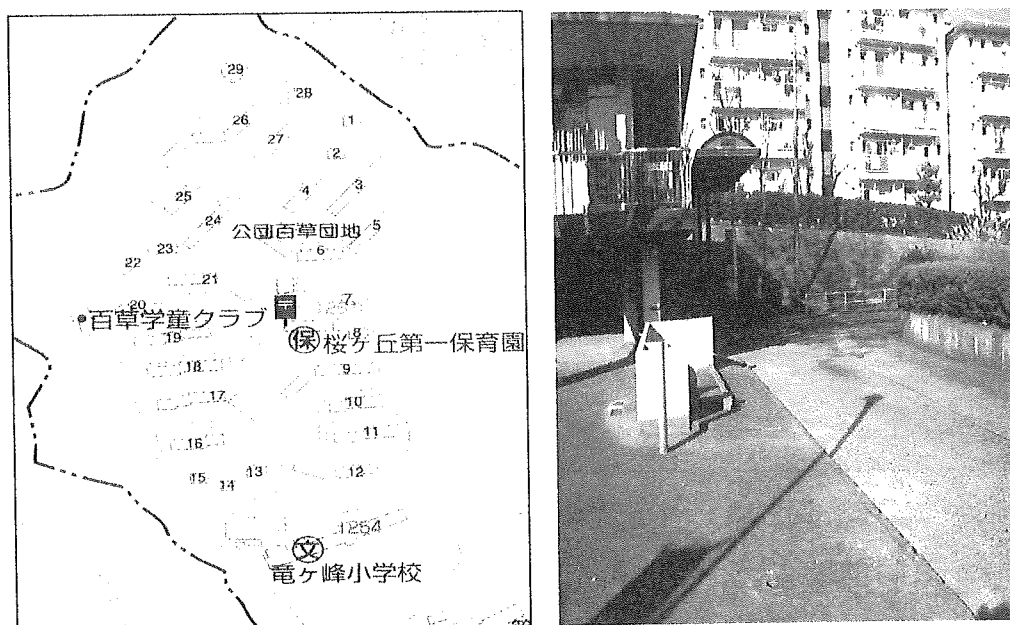


図-17：百草団地の概要と最寄り駅までのバス停の様子

また現在百草団地においては、改修工事が実施されており、居住者の高齢化にともなった団地のバリアフリー化も行われている(図-18)。

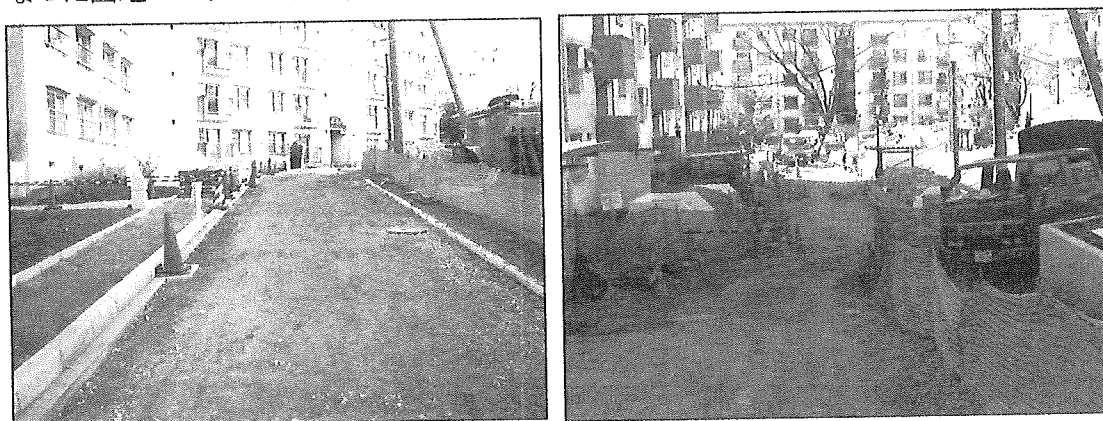


図-18：改修工事中のエリア（百草団地）



図-19：改修工事終了後のエリア（百草団地）

また、百草団地を含む計4団地に居住する65歳以上の高齢者へのアンケート調査のデータを見ると、百草団地居住高齢者の都心への外出頻度が高いことがわかる。

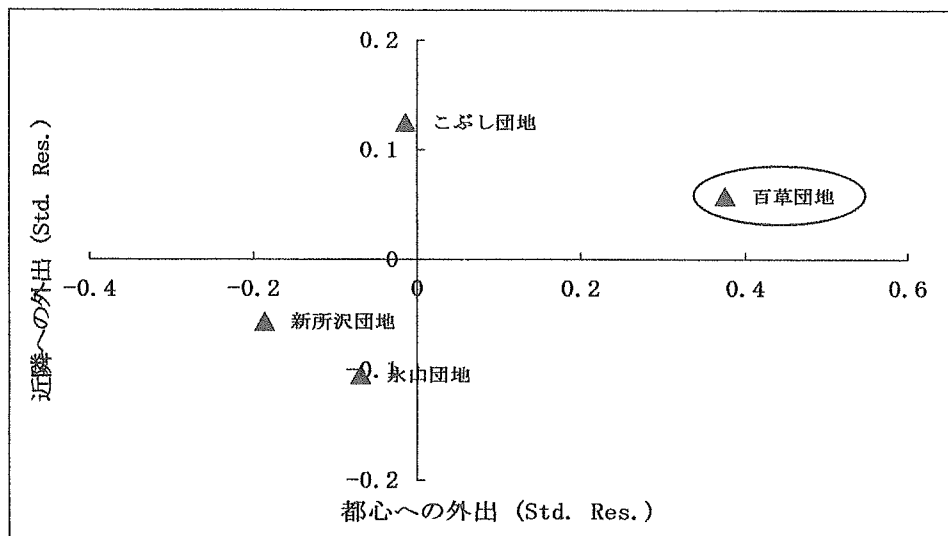


図-20：団地別にみた都心および近隣への外出頻度

(注) 数値(Std. Res.)は、年齢、性別、世帯収入の影響を回帰分析により取り除いたものである。

## 4. 考察

高齢者の社会参加を拡充するにあたっては、自宅からさまざまな地域の施設(社会的資源)までのアクセスを確保することが、重要なポイントとなってくる。高齢者へのアンケート調査やヒアリング調査だけでは明らかになりにくい、ハード面における近隣地域の状況を把握することが、本フィールド調査の主な目的であった。本調査を通じて、以下のことがわかった。

集合住宅(永山団地や百草団地)についてコミュニティ活動を誘発するためには、スペースの確保(集会施設、公共施設、公園、スポーツ施設)することも重要である。また、人が入りにくいかしこまった空間(パブリックスペース)ではなく、自分の生活と関連して立ち寄りやすいセミプライベート、セミパブリックスペースを提供することも有効である。セミパブリックゾーン、セミプライベートゾーンとは、パブリックとプライベートの中間的な空間であり、活動を活性化させるものと考えられる。永山団地や百草団地では、大規模改修に伴い、手すり、スロープの設置が行われている。新所沢については、開発時期が新しいこともあり、開発時にバリアフリー対応がなされているため、問題点は少ないと考えられる。一方、こぶし団地は、戸建て住宅の集合団地であり、一体改修が行いにくい状況があり、バリアフリー改修は個人にまかされている。そのため、実施率は低いと考えられる(図-21)。

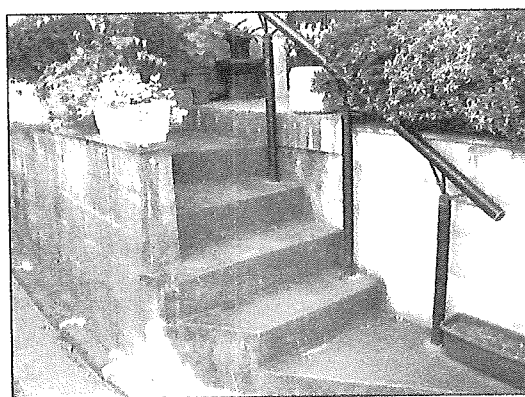


図-21：こぶし団地における手すりの改修

永山団地、百草団地は、5階建ての階段室型住宅であり、エレベータ設置がない。エレベータ設置が望まれているが、技術的な問題、金銭的な問題によって、設置は難しい現状がある。一方、団地内および団地外の歩道等は、バリアフリー改修が進んでおり、段差の解消などが見られる。ただし、永山団地などは、歩車道分離の考えから、

車道はきり通しのように一段低い位置に設置されており、バスなどを利用する際には、10段程度の階段を昇降しなければならないなど、構造的な問題も抱えていることが明らかになった。

今後の高齢者の社会活動を誘発するためのスペースを地域に確保（集会施設、公共施設、公園、スポーツ施設）するには、パブリックとプライベートの中間的な空間であり活動の活発化が期待される、セミパブリックゾーンまたはセミプライベートゾーンといった空間の有効性なども、高齢者の住環境のニーズと合わせて検討していく必要がある。人が入りにくいかしこまった空間（パブリックスペース）ではなく、自分の生活と関連して立ち寄りやすいセミプライベート、セミパブリックスペースを提供することが、今後の高齢者の社会参加をハード面から支えるということにつながってくるであろう。

Appendix A-1 (こぶし団地)

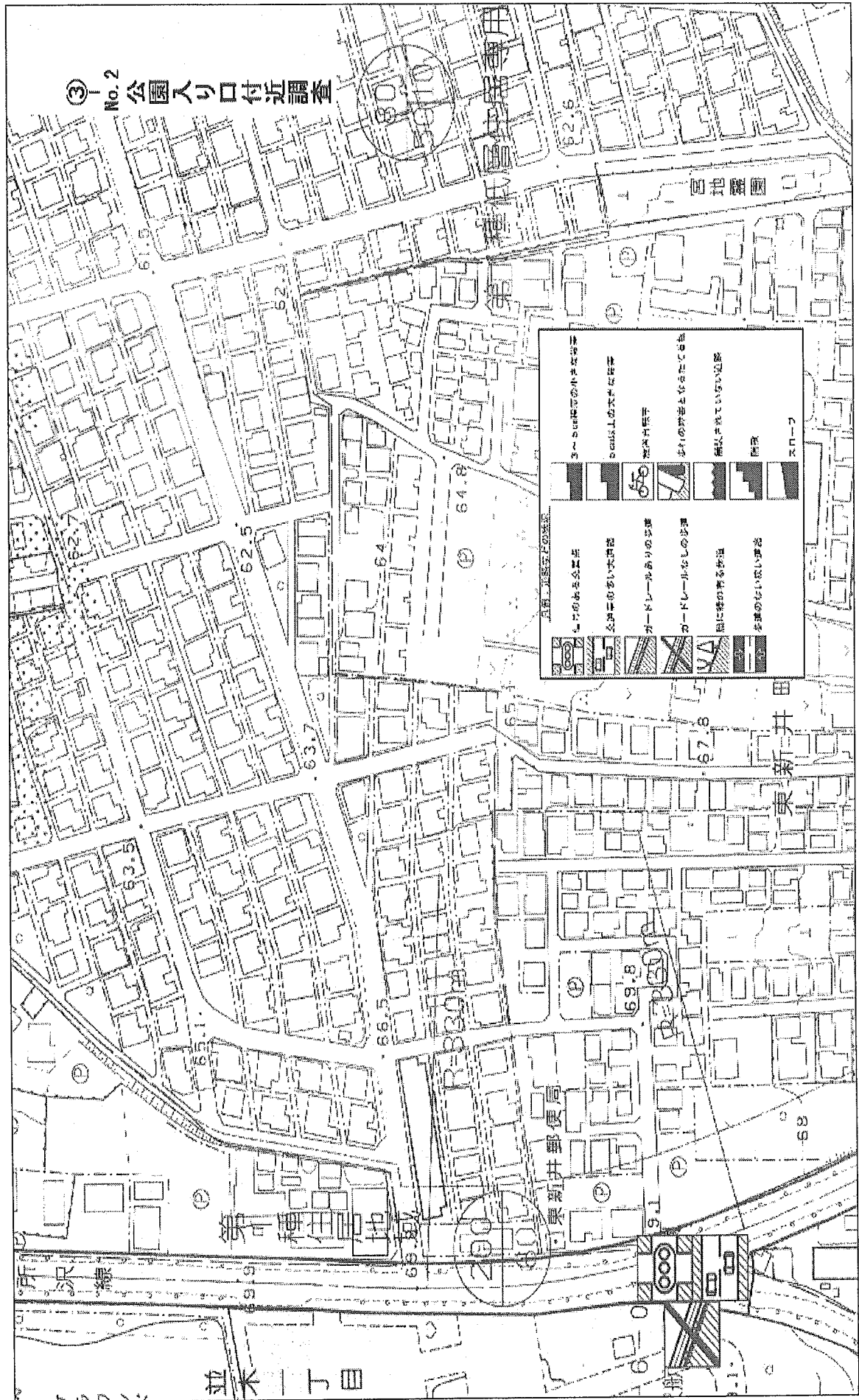




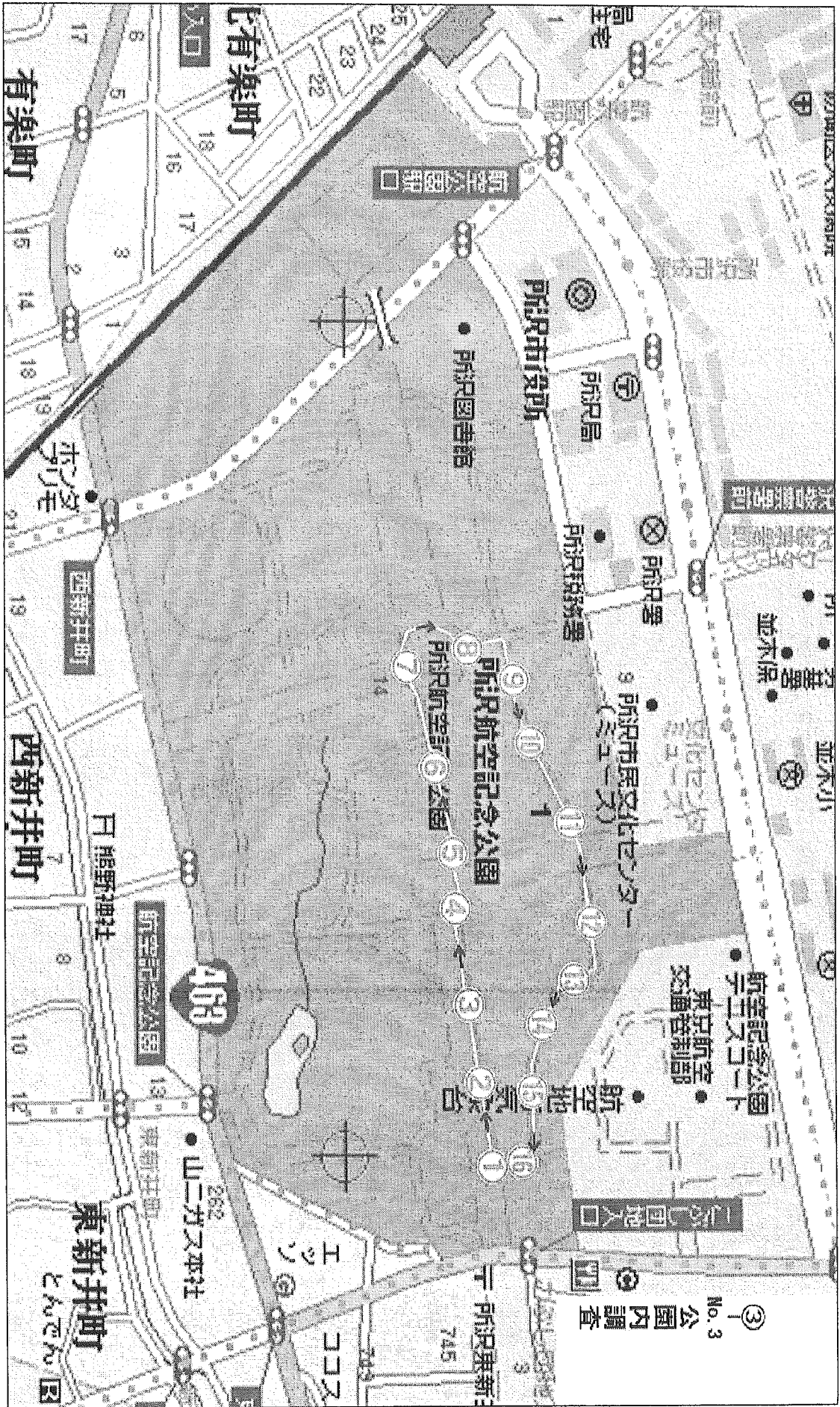
Appendix A-2 (こぶし団地)



Appendix A-3 (こぶし団地)



Appendix A-4 (こぶし団地)



Appendix A-5 (こぶし団地)

